

# 第6回ホスピ川柳 一次選考通過作品

株式会社名優

作品	雅号
流れ込む 父が見ている 走馬灯	ake
父の日を 選び旅立つ 父らしさ	kawase akira
今日もまた おかわりしたくなる笑顔	sasasa
すまんのお子にわびし、父 介護の湯	あ〜たん
母ちゃんは今でも俺の道しるべ	アカエタカ
歩行器がはずむ廊下は孫来る日	アガサンパス135
これからの あなたと共に 生きてゆく	赤猫
点滴の 針抜くまでの 二人きり	浅川の地蔵
自分なら どうして欲しい 問いかける	あすママ
最期まで いつもどおりの 父でいた	あっきー
点滴が 冷やし続けた 深い皺	あまびえ
おさなごや 母を泣かすな まだ生きよ	あやさき
あたたかい その微笑みが 治療薬	あゆ
逝くんじゃない 夫へ会いに 行くと母	アルサプア
言えてない 普通のことば 涙して	あんこ
かあちゃんが ばあちゃんになり いま赤ちゃん	アントニオ馬場
病室を 笑いに包み 親送る	あんどらごら
食べてくれ 私の分の 元気まで	いい夢を
本当の 強さを知った 思い遣り	五十嵐こう
母はいつ 疲れとマスクを とれるのか	いづくにか
車椅子押して花見の母笑顔	一刀両断
笑いだけの 父の意探る 面会日	一步二歩
看護師さん夕べの布団ありがとう	伊藤一翁
家族見て 最期に父が 「仲良くな」	稲岡俊一
かあちゃんの 介護で暮らす クルマ椅子	田舎の爺さん
その晩は 母のふとんに くるまった	いなさく
そっと拭く 道標だったでかい背な	いわきのみっちゃん
あなた誰 おれおれサギも 通じない	岩ちゃん
瓶開けよ 渡す親父の 細き腕	うーちゃん@狼

作品	雅号
陽は沈む二度と交わせぬ「また明日」	うおーるなっと
落ち込むな必ず明日は日が昇る	うけさん
こんにちははじめましてがルーティーン	うさぎおんな
最後まで笑顔絶やさぬ父がいた	うたたねさん
母の荷を下ろした軽い母を抱く	海彦
暴言の瞳の奥の寂しさよ	梅 枇杷子
わがままは独りさびしさうらがえし	うめやえのきだけ
ありがとう想いのすべて込めて言う	うめりん
「ごめんなさいね」謝り皺が母娘の証	卯有
ほほ笑みに癒えた心の半返し	烏蘭
超えられぬ親父待ってろまだ逝くな	栄ちゃん
壊してもいいよ思い出以外なら	A,
泣き笑い一日終われば愛しいね	江坂 ひでき
手をつなぎよぼよぼ歩く幸せだ	越後屋
残命の父が笑顔を振り絞る	悦
床につく母見て安堵明日も又	ekko
ありがとうそして自分へバカ野郎	江戸川散歩
何度でも生まれ変わってまた逢おう	愛媛のみなこ
孫が来る母は必ず紅をひく	えみりい
祖母逝きて感謝、後悔ただ溢る	emo
化けて出てどんな君でも会いたいの	エンジョイワークス
看取るときあなたの笑顔忘れない	おいぶ
今出会う意味があるからここにいる	大川 八里
拍手無き人生舞台今日も診る	大阪ゆうちゃん
手をつなぎ母の歩幅で庭散歩	おーさん
家じゅうの機器が壊れる寂しさに	岡崎佐紅
手を握りようやく言えた「ありがとう」	置楽
あの世でも担当してね待ってるよ	小島 芙美子
逝く時は電話するぞと笑う父	おじゃすか
この涙流せる今に感謝して	おしん
される身の辛さ察してする介護	落穂

作品	雅号
憧れし父よがんばれまだできる	尾津み
空睨む 俺から母を奪うなど	おとちゃん
親孝行 まだ途中だよ お母ちゃん	踊 ヘプバーン
ささやかな位牌の夫を手のひらに	御成山
支えてる つもりで今日も 支えられ	お日様
認知症 母の最後の 「ありがとう」	オフィユカス
また来るね 言える幸せ 目にナミダ	オヤジノムスコ
人生に 悔いなしと母 潔し	温泉イズム
母の目に 映る我が身よ いつまでも	かいごん
ごまかしたさびしい瞳胸うずく	カオリン
不器用でごめんと父が逝った夜	かきくけ子
平成が 昭和を介護 する令和	カクト
見送って元の自分に戻れない	かぐや姫
母よ母 逝くなら俺の 後にして	霞月
油絵を ぬり絵に変えて 筆をとる	かずちゃん
昨日より 楽になったと 笑顔咲く	かずゆき
最期には 壊れたけれど 母でした	かっぱえびちゃん
最後まで自力で風呂へむかう父	勝夕
空にまで さよなら言った 律義者	奏乎
抱き上げた 母の軽さの 重たさよ	かのカッチャン
母さんを 一人にできぬ 子よ許せ	かばくんのかば
来世では もう無茶せんで おかあさん	かびさん
気をつけて 天国までの 一人旅	ガブリータ
逝きてなほ心尽くしの妻の笑み	かめきち
ゆるしてね こどものころにもどったの	カヨ
今更を 今からに代え 春来たる	加代ちゃん
先に行く ゆっくり来いと 笑う母	カラスの行水
あと何回 呼んでくれるの この名前	かりゆし
子は父に 父もまた子に 目で感謝	かりんとう
母が呼ぶ母の前では父になる	カワサン
笑顔なら いつもの幸せが ここに	川島そら

作品	雅号
要介護 明日は我が身が 今日だった	蛙屋 柳斎
抱っこする今度は僕が母さんを	かわせみ時雨
母の手をぎゅっと握ってうなずいて	川端日出夫
長生きを ただ祈るのみ 不孝者	閑居人
生きるんだそう簡単に逝きはせぬ	岩窟王
何気ない 声掛け一つ 頑張れた	かんちゃん
「順番さ」 母の素顔に 決壊す	カンナクズ
「やりきった」 そんな経験 くれた母	神無月
介護する 異端誠実 妻でこそ	きいちゃん
「また来るネ」 寂しげに笑み「ありがとう」	菊池松山
病気でも したいを全部 やってやる	黄くま
肩を揉む ただそれだけで 咲く笑顔	キビコ
母逝きて 山と残りし 紙おむつ	黄鮒
わがままを 言わせてあげる 親孝行	きみちゃん
逝くときも娘気づかう母でした	木村 浩之
握る手を握り返して逝った母	木村隆夫
母さんと今夜限りの 添い寝する	木村るみ子
江戸っ子の父の最後の「バカヤロウ」	キャンパー
照れ屋だなぁ 死に様見せず逝った父	休鶏
カーテンを 開き 朝陽にホッとす	杏花
ばあちゃんが 今日みんなと 笑ってる	ぎょしゅう
忘れても 貴方の娘 ここにいる	きょん
見送るか 抱き止めたいか その背中	空気イヌ
ただ願う 一緒にいたい 明日からも	くすのき
この僕が お迎えなんて 追い払う	口笛歩来
別れぎわ がんこおやじの「ありがとう」	国仲沙那
温泉へ行きたいと言う手を握る	熊猫太夫
盲ろうの 母に指添う 地図の旅	久美子
父ちゃんの『愚直に生きろ』 忘れんよ	黒潮
「息子だよ」 手つなぎ歩く 目に涙	黒猫の茶々
ばあちゃんの 笑顔でみんな 救われる	クンボー

作品	雅号
笑う祖母「孫に似てるね」孫ですよ	けだま
まだ逝かん 逝ってたまるか まだ逝かん	元気マー坊
これも父 あれも父だと 受け入れる	健聖
待ってくれ おぶらせてくれ その峠	けんちゃん
この寝息明日も続けと足さする	行雲
その刹那 心で叫ぶ「ありがとう」	幸島
痩せこけた 手を握りしめただ涙	こうちゃん
目の見えぬ 父が見透かす もう泣くな	こうちゃんママ
溶けること知っているのか雪だるま	小菊
握った手の 力強さは 忘れない	ここなな
介護する母の寝息で仕舞い風呂	小桜なちゅちゃん
ちょっと待ってね 心の中で ごめんねと	コスモス
退院に もう来るなよと 祈る日々	木立慈雨
いつもより 永い眠りに ついた君	こたつ
ただ握り しわを数える おかあの手	コツミ ユチミヤ
今世では 返しきれない 母の愛	ゴディバヤシ
悔いはない 最期に言えた「ありがとう」	こばちゃん
大丈夫 やさしい嘘を 重ね合う	コバヤシ
分かち合う介護仲間の泣き笑い	こぶ茶
さいごだけ 目を見て言えた あいしてる	こま屋さん
笑み浮かべ 父に会えると 母逝った	ころん
瞬きの 数でお返事 口ほどに	ごん爺
思い出に 心が叫ぶ 逢いたいよ	さおり
悲しくは もうないはずの 私は誰	坂本 未来
また来るね 手の温もりを 離せない	さくら
聞こえたよ 最後に返事 くれた母	桜
生き抜いた窪み残れり空きベッド	桜小町
天国で 待っているから 慌てるな	さごじょう
もう一度母に 添い寝をしたかった	山茶花
逝く前の なんと穏やか 母の顔	佐千子
この掌 誰かのためになるなんて	皐月晴れ

作品	雅号
お母さん 寝息たしかめ 呟いて	さっち
「先生」は あの日出会った 患者さん	薩摩の医大生
行かないで なんで勝手に 行っちゃうの	さばのみそに
メガネにも 杖にもなると 誓う朝	三郎
おめでとう 次は私が 母に言う	さやちゃん
大丈夫 忘れる君を 忘れない	さわまう
駆け付ける 孫の到着 待った母	さんごしょう
元気かと 電話の主よ あなたこそ	参肆吉
痩せ細った ゴツゴツだった 父の手よ	三龍
開かぬ目に にじむ涙は 母の声	しーしー
帰ろうね とともに過ごした あの家に	紫雲山
あんた誰 あなたの娘 泣き笑い	JK
涙する あなたの背中 抱きしめる	シェルティ
いつの間に こんな小さくなった父	次元
いつのまに ちっちゃく母の 手はぬくい	ジゴさん
呼ぶ声に 泣くのは後に とっておく	幣原
触診の手が心音を和らげる	シナモン桂
いのちの灯 消えぬようにと さする足	しなやかーる
生ききると103歳の心意気	しばごう
孝行をしたくてそっと 手を握る	しまうま
「息災で」言ったお前が なぜ逝くか	島根のぼん太
「見る」じゃない「観」て「看」ています丁寧に	島水希
サヨナラを 言わずまたねで 妻は逝き	島村冬樹
背中越し 母の言葉を 噛みしめる	しまりす
ご褒美や 今日1日に ありがとう	しもちゃん
守りたい 私が繋ぐ 明日の朝	霜月蒼
秒針よ 急ぐなもっと 子でいたい	じゃじゃまる
ありがとう 手押し車を 撫でる母	じゃむぱん
最後ならここでいいやここがいい	シャレスキー東村
砂時計 落ちゆく時を 気づかせず	ジャンボ
悔いてなお まだ悔い残る 枕もと	シュウ

作品	雅号
最後まで生きる尊厳守る人	秋光
生受けて死までの時間一生は	十猪
認知症が教えてくれる親心	ジョアン
怖かった父が可愛くなっていく	章香堂
杖使い一人で歩くど根性	鍾馗
泣きながら治療に耐えた子の笑顔	硝夕
先に逝くゆっくり来いと言ひ残し	しょうちゃん
何もかも忘れた母が「ありがとう」	正ちゃん
忘れない小さな父の大きな手	しろうさぎ
ありがとう退院してもありがとう	しん
今朝もまたはじめましてと母笑顔	しんちゃん
遠い日の母に戻った死化粧	新屋洋子
母の手を握る育ててくれた手を	翠夏
しあわせと気づくあなたといた時間	彗星
悩み抜き介護離職の切なさよ	スーさん
会うことでつなぐ明日の母らしさ	末っ子
握る手に込めた思いを汲む月夜	すす
鼓動ふれ生死の狭間折りかえす	すずらん
「家帰る」叶えてやれぬ頼み事	スナフキン
できることゆっくりやろう大丈夫	すぬきち
起き上がり僕に気づけば笑い皺	すまいる
今はまだ受け入れられぬそばにいて	スマイル
戴帽(たいぼう)の初心を日々の糧(かて)とする	井蛙
体重が減って存在重くなる	清詞薫
縁有りて今ここに我生かされん	正流
何でだよ何で父さん泣くんだよ	せきぼー
もう一度手を握ってよおじいちゃん	セブン
あたたかい母の最期の保冷剤	仙小
最期まで父であろうとする貴方	洗流
母と子のそれは一つの物語	蒼介
「死なないで」言えずに折った千羽鶴	ソジロウ

作品	雅号
「ありがとな」 今日はその日の 母のまま	ソフィーと双子の姉妹
先に逝く 我が子に咽び 詫びる夜	そよとの風
看護師さんは最後に出会う家族だね。	ソラマメ
「かあちゃん！」と 意識戻れと 呼び続け	そんちく
痩せてゆく 母を両手で 抱きしめる	ター坊ママ
母が俺 見つめたままで 天昇る	大将
闘病といわぬおやじの平和主義	たかはふみと
オムツ替え られてた僕が オムツ替え	たかひろ
介護して介護されての巡り合い	たかやす
兄の名を 呼ばれ笑顔で 返事する	タカン
皆のため我慢するのか母よ泣け	拓ちゃん
有難う いつも笑顔でいてくれて	宅トレ
忘れない あの時の手の 温かさ	たけのこ
どうすれば わたしの寿命 わけられる	たなかちろ
ベッドから 「元気でなあ」と 母の顔	タヌ吉
そこに居るだけでよかった居るだけで	たほちゃん
皆さまに 生かされており 今日一日	たま
がんばって じゃなくがんばったのですね	たんぽぽ
親心 命のかぎり 子の名前	ちー
歩きたい 支えますから 前を見て	チーちゃん
その先の笑顔に向かう車椅子	chie
ごめんより ありがとうねが 欲しいのと	ちくわ
ピエロにもなれるよ笑顔見れるなら	チズチャン
朦朧の祖父が私のために泣く	千船 早帆
失って 初めて気づく 当たり前	ちやる
燃え尽きる前に一言打ち明けて	ちゃんと
最後には かけがえのない ありがとう	チャンプ
最幸の 最期だったと みんな泣く	中年やまめ
見続けた父の背流し織る介護	ちゅん子すずめ
母よもう空でブランコ漕いでるか	ちゅんすけ
ただ一つ あなたの生に ありがとう	超絶怒涛邪馬山田太郎

作品	雅号
「ありがとう」微かに口が動いてた	超捻転
患者さん みんな私の先生です	チワワ娘
見尽くしてなお命とは命とは	椿寿堂
ごめんは無し 私あなたがだーい好き	つきねこ
好きだった 桜を待たず 父は逝く	月見風
大声で 笑う数だけ 生き延びる	ツタツタ日本
子に返る母はわたしの子となれり	つちのこ
焼き付けて見つめたいのになぜ潤む	つべる
病む妻（ひと）を 真綿の肌で 包み込む	鶴見川風雲水
ありがとね 言ってくれたの ありがとね	ティップ
施設から お会いになれます と電話	テクノボー
死ぬまでは 努力しろよと 父は言い	デシ
強かった 父が弱くて 手を添える	てっちゃん
子に戻るあなたは「母」をしたのね	てと
病に臥す 土方の父の 白き肌	てんびん座
花道を ゆっくり歩き 父が逝く	天和
ごめんねに聞こえぬふりでまた明日	糖質無制限
その痛み 代われるならば 代わりたい	桃李
ばあちゃんよ 忘れないでね 孫のこと	とおとお
背負われた 思い出ばかり わが記憶	ドクトル
オムツ替え看護師さんに手を合やす	徳丸はるえ
握る手を握り返してくる命	とし
手を握り 頷くだけの 母を診る	トシサト
ばあちゃんの 最期の笑顔 忘れない	としゆき
手を握る 願いは一つ 目を開けて	となみ
「おやすみ」と 母、言ったきり 逝ったきり	とみこ
もう来るな 返す言葉は まだ逝くな	トミスター
手を止めて 「頑張りんさい」 がんばるよ	ともき
手を取って 1人じゃないと 感じ合う	共に
どなた様 家族様です 母さんの	ともぱぱっち
オレは継ぐ 父の寡黙と 愚直さを	とよ爺

作品	雅号
いるだけで母はひだまりだと気づく	トラノ
「雨降るぞ早く帰れ」とベッドの父	ドラママ
手のぬくみ 笑顔になれる ありがとう	とんかつ
我の名を くん付けて呼び 父が逝く	なおきん
頑強な 父が最期に 命乞い	なおちゃん
家族より 家族であった ありがとう	なおなお
覚えてる声もおいも 苦しきも	長月優子
「ありがとう」 気付けば僕が 言っていた	なぎな
床の父 声なき声を 母は汲む	梨太郎
うで組むのよろけるからよ 照れないで	なつ
お迎えは 怖くないけど 「もう少し」	ナツメ
手で歌う 大きな栗の 木の下で	七瀬 棕
何度でも 聞かせてほしい その話	なにわ紳士
優しさが 見えない傷も 癒してる	なまけもの
その力 多くの生命 救ってる	なんちゃーかんち
点滴を 甘露と受けて 母眠る	西大路湖山人
あの父が 母の手握り ありがとう	西対州
頑張っ 心ささ って大丈夫	にゃんにゃん
袖濡らす 祖母の背中を さする父	ねこ
目を擦る 寝たら 最後と 最期の日	猫大臣
やさしい手 添えて 明るむ 顔の色	眠り猫
孫が来る 面会の日 白髪染め	野崎 眞奈美
母ちゃん！ と 母に呼ばれて 母を見る	のびこ洞
手をひかれ 歩いた道を 手をひいて	のほほん
「大丈夫」 私のセリフ 母が言う	のぼ丸
忘れない あの こと言葉 その姿	のりのり
力なき 手をただ 握る 余寒の夜	ハーフムーン
気の強い 娘でごめん 言えぬまま	ぱたこ
握りあう 手で会話して 懺悔して	バタヤン
葉物野菜 うまい季節よ 死ぬな父	花一匁
車いす 押されて 笑顔 押す笑顔	花キャベツ

作品	雅号
お母さん やっと安らぎ 見つけたね	花太郎
かましいい 母が無口になった朝	華杏
ありがとう その一言で がんばれる	はは
憶いまで 断捨離するな 手を握る	母の子
荒息は 生きたいという母の声	ばばりん
逝かないで 母さんわたし 悔いばかり	ハミングバード
抗がん剤 家族のために選ぶ父	林光子
あと五分 頑張れ父よ 孫が来る	隼人
老いた母 上ずるような ありがとう	パラム
大河好き 父の命が流れゆく	ハリネズミ
忘れても 生きてるだけで いいんだよ	はるちゃん
びょういんは 死ぬためじゃない 生きるため	はるね
最期まで 母の口癖 ありがとう	春人
君の声 今聞くことが できたなら	ぱるぷんて
1秒も 惜しむ母との この時間	はるやす
声枯れた 父は感謝を 目で語る	ハルル
お互いに 同じこと言う 「ありがとう」	ぱんぷらー
次の世も 母さんの子に 生まれたい	ヒカル
子のためと 食すひとさじ 神祈る	久と春
お母さん 今度は俺が 支えるよ	びすまーま
ああ父ちゃん まだ呼ばないで 母ちゃんを	ひで
子に戻る それは違うと 繰り返す	ひまごママ
また来ると 言って最後に 握った手	風信子
大丈夫 ひとりじゃないよ いつの日も	ヒヨコ
嫁にいく 最期に言えた 間に合った	ひらかな
1年の 経過観察 また会えた！	ビリケン真
老いた手の 皺の数だけ かんしゃする	ひりん
細い手に 握りしめてる 生きる意志	ひろぴー
私しか 知らない父の 浪花節	ひろP
痛くない 苦しくないと 嘘言うな	大海
介護する している私 されている	琵琶湖こあゆ
何か違う 仕事と親の オムツ交換	ふ〜たく

作品	雅号
あなた誰？妻に聞かれて涙ぐむ	フーテンくん
看取られる作法教えに父母祖父母	風流士
看護して生きがいもらう 虚脱感	福多郎
笑えればそれだけでいいお母さん	藤田ゆきまち
本当の 介護を知らぬ 他人（ひと）の声	ふじちゃん
泣き笑い詰め込んでいる介護録	ふじちゃん
握る手の 皺を数えて 母を知る	二季
いてくれる ただそれだけで 幸せよ	ぶったま
「ありがとう」伝えてくれてありがとう	ふゆみ
匙を手に 俺は親父に 母は子に	ふりかけ
最後の日 笑顔の母の 涙拭く	ブロッサムマザー
おんがえし 介護と書いて そう読もう	pei
最期まで 聞こえているよ ありがとう	平次の保護者
吸う息を 吐き切り母は 先に逝く	別腹
生きてるだけで 幸せなんだ 他いらん	ベベゾー
父さんの 献身母を 包んでる	ベベの介
母ちゃんと呼ばれて「母」を 演じ切る	ベンジャミン
遅かった たった五文字が なぜ出ない	ポコにゃん
九歳差 妻に介護を 予約する	星新
祖母ちゃんの荒れた手握る枕元	ほり・たく
ノックする音でわたしと分かる父	白とり貝
頼むから 泣くな詫びるな まだ逝くな	ホルモンくん
そっくりな父が私を笑わせる	ほろろ
親父ごめん かじったすねも やせ細り	PON5
頬撫でて 明日は良くなる 信じたい	bonzu
いくつもの 手と手がつむぐ 記憶の環	MAI
声だけは抱きしめていた最期の夜	マイ
育ったよ 残った家族 元気だよ	まごころ
天国の 仲間よ母を 頼みます	マコッチャン
また来るね 会いたくて また強くなる	まこもじゃる
ありがとう 空のばあばに 叫ぶ僕	まさひろ
相棒よこのまま逝ってしまうのか	まさみ

作品	雅号
病む人の心に当てる聴診器	マッサン
見つめ合う 瞳の奥で 叫び声	マッサン
「ごめんね」じゃないよこちらが「ありがとう」	松下弘美
今晚が 峠の母に 添い寝する	松田素風
ゆっくりでいいよ令和はまだ長い	まっちゃん。
徘徊の母は少女に戻りけり	松の妻
長生きを詫びるおかんを抱き叱る	松の本人8888
叔母にだけ 甘える言葉 死にたいと	豆助
今言うよ 一生分の ありがとう	まめ大福
孫の顔 まだ見ぬうちに 逝くな父	まるまるママ
「運命」と 受け入れた父 できぬ僕	麻呂
思い出に 想いを重ね ありがとう	麻呂
「逝かないで」 かき消すように 雨が降る	まろりん
泣かないで 涙枯れるよ お母さん	マンボウちゃん
姉看取り姉追うように 逝きし義兄	みえこ山
大丈夫 きっと元気に になれるから	みか
いるだけで 生きてくれてる だけでいい	みかん
「ありがとう」 話せぬ祖父が 言って逝く	みちゃん
おかあさん ぎゅっとつかんで たのんだよ	みっちゃん
たましいを 零さぬように 背を洗う	美都こんどりあ
行く先の 消えぬ不安が 通じ合う	翠
ごめんねと ありがとうねで 逝った母	みどりの子
母さんは 負けないつもり 泣かないで	ミナト
死をいくつ 経ても別物 母の死は	みなまる
母が逝く 空が私と 泣いている	ミファ
あと一日 あと一日を 積み重ね	みみけい
逝く前に 思い出したね おばあちゃん	みやこ
「ありがとう」「ごめんね」 母は繰り返す	宮ちゃん
孫の声 聞こえて 母の手に力	宮のふみ
また会える だから言わない さようなら	みやみや
逝った先 思う存分 酒飲んで	みらい
一日でも 長くと母の 手をさする	みらいむ

作品	雅号
手を握り 命の温度 受け止める	みんな
介護士さん 泣いてくれたよ おばあちゃん	むーむー
手背のルートは諸刃の剣だ	麦
眼を開けて 夫婦喧嘩が またしたい	無色
なんてことなしの雑談じんわりと	村崎山藤
神様に 母を渡して なるものか	盟主クサイ
ありがとう 冷たいけれど あたたかい	メガネの山田
母の目の中に幼き 我がいる	めめ
ありがとう その一言に ありがとう	メンマ
そう言って 支えてくれた, 「大丈夫!」	モコ
さいごまで あなたらしく いてほしい	もち
寂しいよ 心に居ても さわれない	本宮わこ
枯れるまで 泣いて 思い出 だけ残る	もふもふ
歳重ね 台本にない 風が吹く	桃太郎
読み返す 看護日誌に 母の声	森 かえで
母ちゃんよ 朝が来たから 起きてくれ	モンテカルロ
生きようとしてる あなたに 生かされる	やーくん
指切りを 解かずに 眠る母は 吾子	八木 五十八
あなたから 助けてもらう 我が生命	やす
今少し 灯れよ母の 命の灯	安田蝸牛
孫抱っこ 一度きりだが 会えたんだ	やっち
天国のジイジは ボクを 忘れない	八十日目
懸命に生きて てください ありがとう	柳瀬祐
看護師が 来るとは しゃいだ 父が居た	やののっぽ
死に際を 自分で 決める 潔さ	お結び
母は言う 絵本の中に 住みたいと	山田太郎
ありがとうの 笑顔で 明日も 頑張れる	山田遊
幾度でも 笑顔で 聞くよ その話	やまびこ
まっすぐに 生きてと 遺し 逝った母	山宗雲水
人生を 顧みる 日々くれた 部屋	やまやま
父さんの 強さを 知っている 涙	やんちゃん
母が言う 三分毎の ひさしぶり	唯我独尊

作品	雅号
最期の日 あなたは言った 幸せにと	ゆう
ただそばにいるそのぬくもりにただ感謝	ゆう
バカ息子 今日はたい焼き 置いて行き	ユーキ
病室で 足湯と涙 2人きり	優ちゃま
陽だまりに本音で話す父という	夕凧
母は今思い出の中散歩中	夕陽のガンマン
子に戻る 母と一緒に 遊ぶ日々	ゆうゆう
帰りたい ふと見る窓の 哀しい目	ゆずろう
ありがとう伝えたかった誕生日	弓月
助けたい まずは近くの あなたから	ゆづき
婆恋し 廊下は爺の 写真展	ゆみっくりん
変わりゆく 母の世界を 抱きしめて	ゆらら
安らかな 寝顔にホッと「お疲れさん」	宵の明星
何もかも忘れた人を忘れない	葉火
この咳も 親父が生きている証	陽光
洗濯をしなと声掛け母心	よーせい
ありがとう 不意に聴こえた 気がします	よし
手をにぎり 俺の生きざま 見ててくれ	義騎
「してない」は「出来ない」よりも 辛いこと	義輝
延命を 聞かれて悟る 我が命	よっちゃん
報われず 力尽きては 辞めてゆく	よっちゃんぱんだ
祈るしかできない俺に母笑う	よもぎもち
喧嘩ばかり素直になれずごめんなさい	四大文明
がんばって 無理しないでと 手を握る	ライフレイコ
「そばに居て」夜のコールが鳴り止まぬ	ラッパさん
かあさん まだまだ「ただいま」を言わせて	ランプ
産声と 別れの涙 聞きし朝	りさ
母さんを 頼むと父の 初涙	龍神
もう一度 呼んで貴方が くれた名を	リン
母の日は 涙が脆く なる	りんご
先生の一言でよく眠れます	りんりん
あとたのむ 家の農業 まかせたぞ	ルアーマン

作品	雅号
母ひとり子ひとり父の名で呼ばれ	ルーキー
生きたいと逝きたい父の やじろべえ	ルーク
この声と 手の温もりが大好きです	るーちゃんママ
抜け殻を残して星になる母よ	ルーン
懸命に生きたあなたが誇りです	ルルル
ありがとう 心やすまる がんばれる	れいよっちゃん
ぬくもりを感じる先に母浮かぶ	レインボー
「何故産んだ！」が「産んでくれてありがとう」に	レディ馬場
天仰ぐ 泣くんじゃないと 空が言う	レモン
病院の ベットの 上で そばにいて	レモン
暴言の父の最期の「ありがとう」	蓮花
まだ元気 憎まれ口を 聞くうちは	老人生
子供らに 看取られて 逝く 往ってくる	RON
大切な時間もらったホスピタル	わこわこ
孫がむく ゆで卵持ち 涙かな	笑うカメ
早すぎる 落ちるな 父の砂時計	わらび
喋らない、喋れない母 頷く目	奥の寄道
細く燃える生命力に会いに行く	各下奈磨江
告知うけ看られる側の思い知る	向日葵大好き
手を繋ご 目にも杖にも なれるから	今井純生
冷えた手でごめんなさいと背を支え	柴田 睦郎
噛み付いて伝えるもだえ 話したい	緒方 水花里
「すまないね」 つぶやく母の目に涙	招き猫ひーちゃん
飲み込みを待って笑顔の小休止	菅亜希子
吸入器握れば握り返す手よ	菅伸明
先生のあのひとことが宝物	豆ヤ芋子
ちぎれ雲何も告げずに逝くなんて	道
リフレイン記憶に遠き祖母の唄	白山
意識無い 母へ渾身 子守唄	豹悟
母さんよごめんと今も悔悟の日	風まかせ
だいじょうぶ 嘘つく母の 優しさよ	明日香
処方箋薄く希望と書いてある	萬 桜林